

見たり 聞たり

批評は御勝手

小林忠平なる怪漢が到る處で電燈料値下の駄演説會を開いて、イクラカ物にしようとする時東部電の平営業所をもその威喝園内に入れようとした處が武田精一所長は臍下丹田の鍛へたる胸現し、そんな事でビク付程の強虫にあらず要求を一蹴した爲め旅館の支拂が出来ず、二圓だけ恵んで貰い度いと泣きを入れたが、それがそれといつて武田氏は惜しい人物だと好評噴々。

大平陸四郎先生曰く、不景氣なんてあるものか現在の状態は當然で、殊更に不景氣と云ふものではない。大正七八年頃の事を夢に見て居るので現在不景氣の様

に思へるが、決してそんなものではない。僕なんか不景氣とは決して思へないし又考へた事もない。さすがに大きい處がある。

一旅客の述懐、平町は夜の氣分が一番良い様だ、然し一寸一杯やりたいと思つてもカフエーでは十二時後は一切出入罷りならぬとあつて、押し出さるゝには閉口だよ、聞く處によると女給

對客の間に風紀を紊す懼れありと云ふのださう、だが

これは一般の客には迷惑だ違ひ易いので信書の誤配や何んとか今一時間位の時間電話の間違ひで双方迷惑が延長が望ましい、洋食組合でも充分嚴重な方法を講じてその節の諒解を求めたら

報と誤配やら誤聞された爲でその節の諒解を求めたら

小泉富彌氏は小野新町の消

九品寺住職遠藤心光氏は

ねて本堂改築を企て、有志

の寄附を募りつゝあつたが

最近本堂の基礎工事を終つ

た。コンクリート造りとし

て永久に残すべく壯麗な

ので此の外聖徳太子堂の建

立にも着手し、近く工事を

始むる筈であるが同寺は徳

一上人の遺筆により、由緒

直しき名刺で心光氏の努力

は後世に傳ふべき精進と云

ふべく、氏の此の事業に對

しては一般微力を致すべき

であらう。

平町醫師會が磐城共濟病院

植田裁縫女學校々長榎田四

郎氏は大正八年から、吼々

の廣告について研究的にそ

の筋へ調査方を求めた事件

として努力既に十回の卒業

四倉如來寺住職小松學俊氏

庭内の牡丹園は東北に冠た

るべくその種千餘種に達し

明年開花期を鶴首されて居

る、又夫人光要氏は縣下華

道十傑に入選し、徳望深く

各學校に教鞭を執つて居る

夫妻共に傑出したるは稀に

見る處と云ふべし。

外科専門科線

入院應需
上田外科醫院
電話一、二一九番

内科、小兒科 (院長毎日診療)
院長 醫學博士 難波 波
内科部長 栗野 省
外科部長 醫學士 氏家 憲
産婦人科部長 醫學士 五十嵐 雄二
本院 局長 賀吉 本孝
本院 主事 澤忠 治平
電話七二番

光線装置

最近×光線装置
主任 醫學博士 難波 波
入院自炊ノ便アリ
◎看護婦募集
七月十一日ヨリ日本銀行代理店ヲ引受候ニ付國庫ニ關スル事務ハ一般銀行事務ト共ニ便宜取扱申候
昭和三年八月

共濟病院

平町電話六四一
電話三三〇番

株式会社平銀行

小名濱町
電話三三〇番

小名濱町

電話三三〇番

乃家

電話三三〇番

郡山行銀組合

郡山倉庫會社
電話二五六

暑中御伺

平料理屋組合

平西洋料理業組合

理化學研究所
吸入用酸素
酸素吸入器
優良なる現研の酸素の御用意を
特約店 關内藥局
藥劑士 關内 榮助
平町 電話四〇番

高久病院

平町字田町 (電話五二二番)
院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑士 佐竹 菊雄
◎第二病室増設 入院隨時

磐城セメント特約販賣店

和洋銅鐵金物問屋

釜屋商店

諸橋久太郎
電話九番 一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は生命なり

郡山行銀組合

郡山倉庫會社
電話二五六

郡山行銀組合

郡山倉庫會社
電話二五六

郡山行銀組合

郡山倉庫會社
電話二五六